Japan-Iran Forum on Architecture and Urban Issues
February-May 2018, Tokyo | Architectural Institute of Japan, ARCHI-DEPOT Corporation
日本イラン建築・都市会議 | 日本建築学会×日本建築文化保存協会

変容する「都」<4+2>

～古代ペルシャから現代東京まで～

Transformation of Capitals <4+2> : From Ancient Persia to Contemporary Tokyo

展覧会 Exhibition **2018年3月4日(日)- 3月20日(火)**

入場無料・会期中無休（9:30～19:30、土日9:30～17:30）

シンポジウム Symposium **3月5日(月)** [13:30 - 17:30]

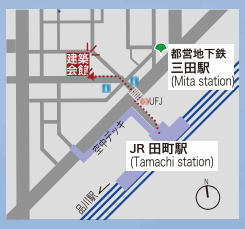
定員300名・入場無料・日英同時通訳付き(150名分)・事前申込者優先

300 persons of Seating capacity　Addmission free　Japanese-English Simultaneous interpretation for 150 attendances　Priority to pre-registrant

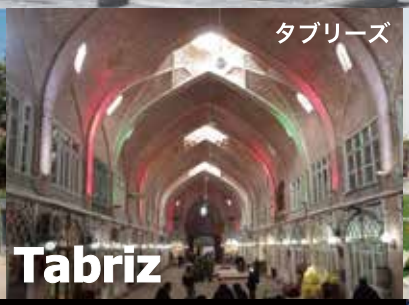
会場：
建築会館 建築博物館ギャラリー
同会館ホール

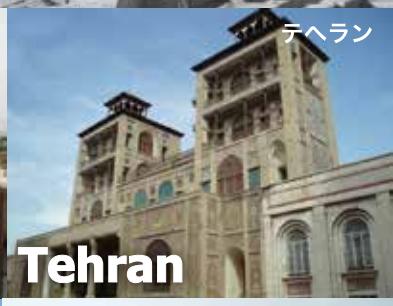
JR田町駅から徒歩5分
都営地下鉄三田駅から徒歩３分

Venue: AIJ Gallery and AIJ hall,
(5 mins walk from JR Tamachi Station, 3 mins walk from Mita subway station)



事前申込先：建築学会HP　https://www.aij.or.jp/event/list.html（催し物・公募一覧）
問合せ先：一般社団法人 日本建築学会　総務グループ（図書館・建築博物館）
TEL：03-3456-2019　E-mail：mishima@aij.or.jp





日本とイランを代表する４つの世界遺産古都、２つの現代首都は、いかに生まれ、どう変わってきたか。
古代と現代を繋ぐペルシャ庭園、バザール、広場、京町家、王宮（皇居）などの都市遺産はいかに守られているか、どう後世に伝えていくか。
行政、文化遺産管理者、都市計画専門家による講演、および展示会での模型やパネルを通じて、両国の都の「将来像」を探る。

主 催：一般社団法人日本建築学会、一般社団法人日本建築文化保存協会
共 催：公益社団法人日本建築家協会
後 援：外務省、国土交通省、文化庁、在京イラン・イスラム共和国大使館、国際交流基金、品川区、公益財団法人日本美術協会、一般社団法人日本イラン協会、文化遺産国際協力コンソーシアム、寺田倉庫
協 賛：イラン技術者協会、アザリスタン・グループ、パヤ・シャール
協 力：イラン文化遺産・手工芸・観光庁、タブリーズ市、シラーズ市、京都市、株式会社丹下都市建築設計、独立行政法人東京文化財研究所 、建築倉庫ミュージアム、シラーズ大学、ブアリシーナ大学、イラン科学技術大学、中央大学理工学部、明治大学小林正美研究室

変容する「都」<4+2>
～古代ペルシャから現代東京まで～

Transformation of Capitals <4+2> : From Ancient Persia to Contemporary Tokyo

Japan-Iran Forum on Architecture and Urban Issues
February-May 2018, Tokyo | Architectural Institute of Japan, ARCHI-DEPOT Corporation
日本イラン建築・都市会議 | 日本建築学会×日本建築文化保存協会

開催趣旨

イランの首都は、イスラーム化以前から主に王朝の興廃と共に移り替わっており、それに伴ってイランの各都市にモスクやバザール、キャラバンサライなどの特徴ある都市施設が形成されてきました。それらの歴史的都市遺産は現在に至るまで都を支える重要なインフラとして機能し、現在においては世界中から訪れる観光客を魅了すると共に、現代イラン人の生活の一部としても息づいています。近代（20世紀）に入って車移動を主とする近代都市計画がイラン各地の都市に導入され、現代都市が形成されていきました。現代イランの歴史的都市では、歴史的文脈の中で開発を進める一方、歴史都市景観保全のための様々な試みが同時並行的に実施されています。
日本の都市では戦災や震災を機にした様々な計画が実行され、大きな変貌を遂げて成熟期に入っています。その過程の中で一部の歴史的空間が残されただけでなく、近代都市計画の遺産としての空間も生み出されました。日本の歴史的都市においては、失われつづけてきた歴史的空間を保全・再生・活用していく努力が続けられています。イランと日本の都を取り巻く状況にどのような共通点や違いがあるのでしょうか。本展覧会/シンポジウムでは、イランと日本の代表的な4つの「古都」および「現代首都」を比較検討することで、両国の「都の将来像」について考えます。

Prospectus

This symposium focuses on the representative historic cities such as Tabriz, Isfahan and Shiraz which used to flourish as former capitals of Iran and are actually listed as World Heritage Sites (WHS), and Tehran which is the present capital. These Iranian cities are to be compared with Japanese cities of Kyoto and Tokyo (Edo) so as to clarify the formation and transformation of the target cities. Participation of mayors, urban planning administrators and academic experts from these cities in a series of discussions with Japanese counterparts will give future images of such historic cities in an international context.

シンポジウムプログラム(2018年3月5日 (月) 13:30~17:30)

開会の言葉	古谷誠章（日本建築学会会長、早稲田大学教授）
基調講演	駒野欽一（国際大学教授、元駐イラン日本大使） 『イランの多様性とイラン歴史的都市の魅力』
ペルシア帝国の王都	ヘイダール・エスカンダルプール（シラーズ市長） 『ペルセポリスからシラーズへ:都市変容の歴史学』
シルクロードの交易都市と 創られる新都	イラジ・シャヒン・バヘール（タブリーズ市長） モルテザー・アブダール・バクシャエシュ（イラン文化遺産・手工芸・観光庁東アゼルバイジャン局長） 『世界遺産タブリーズのバザールが果たした歴史的役割と、交易都市としての未来像(仮)』
『エスファハーン×京都』 -世界遺産古都の保全戦略-	フレイドゥーン・アッラヒヤーリー（文化遺産・手工芸・観光庁エスファハーン州局長） 『世界遺産都市 エスファハーンの変遷と歴史的遺産保全への取組(仮)』 鈴木 章一郎（京都市都市計画局長） 『世界遺産都市 京都における遺産・景観の保全と都市格の向上に向けた取組』
『テヘラン×東京』 -メトロポリスの中の都市遺産-	モハンマジャヴァド・マーダヴィネジャド（タービアート・モダレ大学美術・建築学部准教授） 『テヘラン：夢から現実へ、過去・現在・未来』 石川幹子（中央大学理工学部教授） 『水網に支えられた庭園都市・江戸と、未来へ繋ぐ都市遺産』
パネルディスカッション	モデレーター　山田大樹（東京文化財研究所アソシエイトフェロー）
閉会の言葉	三宅理一（日本建築文化保存協会理事）

総合司会 和田 菜穂子（東京建築アクセスポイント）

入場無料（定員300名）・日英同時通訳付き、事前申込者優先
Admission free・ Japanese-English Simultaneous interpretation・ Priority to pre-registrant
＊同時通訳機器の数には限りがあります。事前に連絡をいただいた方が優先となります。ご了承ください。
＊18:00から19:30までレセプションあり（別料金1000円）

展覧会
3月4日(日) - 3月20日(火)
同建物内（建築会館）ギャラリーにて
各都市の模型、都の変遷パネル
工芸品、イラン歴史都市の映像を展示

同時開催
（別会場）
「日本イラン関係から見た近現代建築」展
- シャーの建築家たち / 丹下健三 / そしてポスト革命世代
会場：寺田倉庫 B&Cホール　1F（東京都品川区東品川 2-1-3) [天王洲アイル駅より約５分]